

# グリーンサークル 47号

クローズアップ

川添 修  
多摩グリーンボランティア森木会の  
活動20年を振り返って  
多摩市みどりのかわら版 芳野 俊彦



オニドコロ

～クローズアップ～

## 多摩グリーンボランティア森木会の 活動20年を振り返って 多摩グリーンボランティア森木会 会長 川添 修

前号に引き続き、活動20年を超えた「多摩グリーンボランティア森木会」の活動について特集します。

### 多摩グリーンボランティア（GV）森木会の 活動のあゆみ

#### 多摩GV森木会の活動の広がり

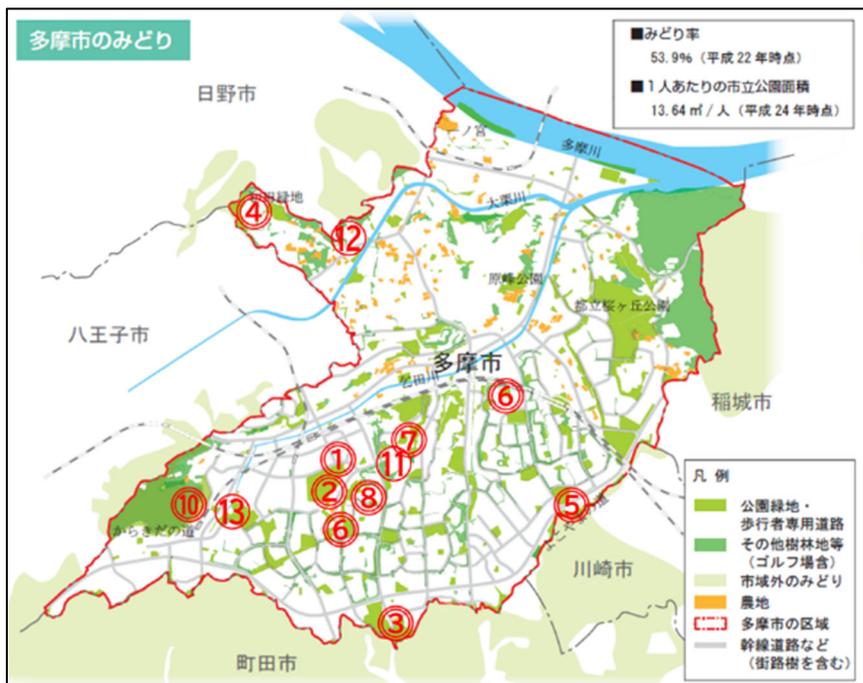
#### ① 多摩GV森木会

多摩GV森木会は、多摩市と協働して多摩GV森木会の活動を行っていることや、その活動を広く市民の皆さんに知って頂きたいことから、その事務局を多摩市立グリーンライブセンター内に設けさせて頂くこととしました。

私たち「多摩GV森木会」の活動は、「政治と宗教に関わりあわない。」ということを基本理念にして、活動に取り組んでいます。活動に興味のある方は、直接それぞれの活動場所を訪ねて頂くか、多摩GV森木会のホームページ、または事務局のある多摩市立グリーンライブセンターへお尋ねください。

活動開始年・人数・面積 (令和3(2021)年10月現在)				
表示	活動箇所名	開始年	活動人数	面積(m <sup>2</sup> )
①	多摩GV森木会本部 (GLC活動班)	平成13(2001)年9月	59	3,000
②	森木会 多摩中央公園班	平成15(2003)年1月	26	12,000
③	一本杉公園 みどりの会	平成15(2003)年1月	23	14,000
④	なな山緑地の会	平成15(2003)年12月	47	25,000
⑤	森木会 よこやまの道班	平成18(2006)年4月	33	12,000
⑥	永山駅前雑木林 保全育成の会	平成18(2006)年11月	68	10,000
⑦	フレンドツリー リポーターズ 豊ヶ丘の杜	平成19(2007)年10月	26	10,000
⑧	森木会 亀ヶ谷緑地班	平成23(2011)年4月	22	10,000
⑨	どんぶり山を 守る会	昭和62(1987)年1月	18	17,000
⑩	からさだの道の会	平成23(2011)年2月	18	43,000
⑪	豊ヶ丘小 学校林活用・再生 プロジェクト委員会	平成25(2013)年4月	18	7,000
⑫	和田緑地の会	平成28(2016)年6月	17	3,000
⑬	鶴牧西みどりの会	平成29(2017)年4月	13	5,000
活動箇所 13箇所			388	171,000

多摩GV森木会の活動開始年・人数・面積



多摩GV森木会の活動場所

## ② 多摩中央公園班

多摩中央公園班は、平成15(2003)年1月に、第1期講座の修了者の皆さんが主体となって、多摩中央公園の県木の道沿いの東側の雑木林とモウソウチク林での活動を開始しました。活動場所を植生や地形の特徴から多摩中央公園の中(なか)を取って、中1地区から中4地区までゾーニングして、それぞれの環境の特徴に合わせた保全育成活動を続けています。

毎年4月には、多摩市広報で市民の皆さんに呼びかけて竹林に生えるタケノコを題材に、竹について学ぶ「親子でタケノコと遊ぼう」を行っています。



## ③ 一本杉公園みどりの会

一本杉公園みどりの会は、一本杉公園内の加藤家や有山家、野球場周辺の雑木林を中心に、平成15(2003)年1月に、第1期講座の修了者の皆さんが主体となって、活動を開始しました。活動する雑木林内には鎌倉古道と推定される場所や、ホテルが飛び交う流れなどがあります。初級講座で行うこととなったクヌギ-コナラの苗木植栽は、当時、草地となっていた東京都水道局の南野給水所に隣接する斜面から始めました。

一本杉公園みどりの会では、炭焼き小屋の下にある雨水流出調節池の裸地を活用して、落ち葉や腐葉土を活用したサツマイモなどの植物観察園の活動を始め、地域の保育園や幼稚園などの参加を得て、子どもたちへの自然の楽しみを伝える活動も始めています。



## ④ なな山緑地の会

なな山緑地の会は、平成13年12月に和田と百草団地に隣接し開発を免れた雑木林について、隣接する自治会から市長宛に緑地保全の要望書が提出されたことに始まります。その保全要望緑地の一部において、平成14年に、竜ヶ峰通りと中和田通りに隣接する約1.0haの里山が、地主の方から多摩市に寄付されました。多摩市では、和田緑地保全の森特別緑地保全地区に指定して保全していくこととなりましたが、特別財政難から維持保全することが難しいので自治会を中心にボランティアで管理してほしいとの要請がありました。多摩GV森木会では、自治会の方々と相談して平成15年4月に多摩市GV講座をこの地で行い、雑木林と農のつながりを元の地権者から説明して頂き、自然循環の核であることを知りました。これらのことから平成15年12月から「なな山緑地の会」の活動が始まりました。

なな山緑地の会では、平成28年に「なな山緑地植物標本プロジェクト」を立ち上げ、平成30年11月になな山緑地の植物382点の中から50点を選び、首都大学東京の牧野標本館の標本庫に納める活動も行われました。



## ⑤ よこやまの道班

よこやまの道班は、平成18(2006)年から諏訪ヶ岳(標高144.3m)を中心に、活動を開始しました。多摩よこやまの道の名称は、万葉集の防人の歌で「赤駒を山野に放し捕りかにて 多摩の横山徒歩ゆかやらむ」と読まれ、その歌の中から命名されました。多摩よこやまの道は、多摩市域(丘の上広場から唐木田配水所)だけでも約10kmの道のりがあります。休日には、多くの散策者が訪れる自然歩道となっています。これらの人々に気持ちよく散策して頂けることを願って、初級講座の修了者が主体となって活動を始めました。

平成27年9月には、新日本歩く道紀行の「歴史の道」100選に認定されました。よこやまの道班が活動する諏訪ヶ岳の付近では、四季折々の植物や多様

な小動物の生息痕跡が見られます。また、木々の間から、富士山や奥多摩の山なみも望めます。



### ⑥ 永山駅前雑木林保全育成の会

永山駅前雑木林保全育成の会は、平成18年から活動が開始されました。永山駅前の雑木林(約1.0ha)

は、平成17(2005)年に(独)都市再生機構から開発計画が示されたとき、貴重な自然が残る雑木林の保存を目指して市民有志の



提示された開発構想模型  
(2005年10月)

「駅前雑木林を守る会」が発足され、約1年間にわたる保存に向けた署名活動などにより6千名近い署名を集め多摩市に請願した結果(独)都市再生機構から買い取り、市民との協働で駅前雑木林(愛称: さえずりの森)として保全・育成することとなりました。



### ⑦ フレンドツリーサポーターズ

フレンドツリーサポーターズは、平成17年5月に多摩市と南信森林管理署の間で締結された「遊々の森協定(多摩市民の森)面積約19ha」により、昭和57(1982)年から続けられてきていた多摩市の小学生が多摩市立八ヶ岳少年自然の家に移動教室で訪れる際に林業体験を行っていたことから、平成18年8月に多摩市教育振興課の指導で多摩市民の有志(多摩GV森木会の会員を含む24名)が集まり、小学生の林業教室をサポート活動することを目的に発足しました。この活動により平成29年(2017年)に林野庁長官賞を、平成30(2018)年には多摩市教育委員会表彰を受賞しています。

フレンドツリーサポーターズでは、八ヶ岳多摩市民の森での活動だけではなく、平成19(2007)年9月から豊ヶ丘の杜でも活動を始めました。さらに平成23(2011)年からは東永山複合施設(旧東永山小学校)の東側法面でも活動を始めました。豊ヶ丘の杜の活動には、豊ヶ丘小学校の子どもたちも参加する「子どもたちと共に水と緑の豊かな杜を育む」活動を進めています。子どもたちが手書きした「ごみ捨て禁止」のポスターが掲示されたら、ごみ捨てが見られなくなりました。



### ⑧ 亀ヶ谷緑地班

亀ヶ谷緑地班は、平成23(2011)年4月から、第9期の初級講座の修了者を主体に活動を開始しました。亀ヶ谷緑地の北側から西側にかけては戸建て住宅が緑地斜面の下側に隣接して、東側から南側には高層の集合住宅が緑地斜面の上側に隣接しています。また、緑地内の散策路を通勤通学や買い物などの生活通路として利用されている方がとても多い緑地です。

活動を開始する前の亀ヶ谷緑地は、急傾斜の斜面緑地であることなどから、管理が行き届かず、アズマネザサ等が繁茂する荒廃緑地でした。多摩GV森木会の活動も10年を超え、多摩市の中でも評価され始めたことから、多摩市から亀ヶ谷緑地での保全育成活動が要望されたことをきっかけに、第9期の初級講座修了者に呼びかけ、活動を開始しました。

亀ヶ谷緑地の散策路の斜面地では、タマノカンアオイの群落がみられます。緑地内おモウソウチクは、地元の方々のどんと焼や七夕のササに利用されています。また、ホウノキの葉を活用して、朴葉寿司を作るイベントなども行っています。



### ⑨ どんぐり山を守る会

どんぐり山を守る会は、多摩GV森木会の創始者の一人である内城道興さんとその仲間の人たちにより、昭和62年(1987年)から始められていました。当時は、多摩市落合第五児童公園と呼ばれていましたが、公園の中の林にクヌギやコナラが多かったことから愛称としてどんぐり山と呼ばれていました。平成26年の「多摩市みどりの基本計画(改訂)」に合わせて、公園名称もどんぐり山公園と改名されました。多摩GV森木会として一緒に活動するようになったのは平成20年(2008年)からです。

内城さんが活動を始められた当初は、公園の周辺には住宅も少なく、多摩中央公園の東側斜面のみどりにつながる緑の川となっていました。活動拠点の作業小屋までは、ドラム缶焼きの炭焼き活動なども行われていましたが、近年では公園に接して住宅が建てられ、これらの活動ができなくなっています。



### ⑩ からきだの道の会

からきだの道の会は、平成23年12月からからきだの道の近隣の市民有志により、からきだの道の自然環境保全を推進することを目的に始められました。

からきだの道に生息するカブトムシの保全育成を、大松台小学校の児童と一緒に幼虫から成虫の放虫までを観察しながら、生物多様性の循環のしくみを育んでいます。



### ⑪ 豊ヶ丘小学校 学校林活用・再生プロジェクト委員会

豊ヶ丘小学校 学校林活用・再生プロジェクト委員会は、学校の敷地内に残された約0.7haの雑木林を持続可能かつ地域の宝としての学校林にしていくた

めに活用・再生していく、ことを目的に平成25(2013)年4月から活動が開始されました。児童が主体となって伐採した方がよい木や土留めを行った方がよい場所などを確認しつつ、話し合いを行い、児童の学習とともに様々な対応を保護者や地域の協力者などと組み合わせています。

豊ヶ丘小学校では、学校林をユネスコスクールの拠点の一つとして、5年生は「学校林博士になろう」、6年生は「100年後、200年後まで学校林を残そう」をテーマに環境学習をして、平成25年12月に多摩市内で開催された「第5回ユネスコスクール全国大会」やその後の「環境・緑化産業展(エコグリーンテック)」など、多くの機会をとらえて、その成果を発表しています。



### ⑫ 和田緑地の会

和田緑地の会は、多摩市がこの緑地を取得した時、なな山緑地で活動していた人たちが中心となり、平成28年6月から活動が始められました。

和田緑地は、日野市との市境に、大栗川の河岸段丘崖の斜面地として残されてきた雑木林です。活動している面積は0.3haと小さいですが、東西に私有地の雑木林がつながり、緑量の多い景観の中に位置しています。保全育成してきた林床には、ジュウニヒトエの群落が見られます。

なな山緑地から中和田通り沿いに厚生荘病院脇までつながるこの斜面緑地は、多摩市のみどりの基本計画の中で、「多様な生物生息空間の骨格となるみどりの拠点と軸を形成するため、まとまりある民有樹林の保全を進めます。」と位置付けられた重要なみどりで、今後このつながり部分は、さらに大きくなっていくことと予想されます。



⑬ 鶴牧西みどりの会

鶴牧西みどりの会は、鶴牧西公園の南側に位置する雑木林の斜面を中心に、平成29年4月から活動を開始しました。鶴牧西公園も戸建て住宅や集合住宅に囲まれています。鶴牧西公園内には田んぼや竹林、古民家、多摩市天然記念物のシダレザクラ、市民が活動する果樹の谷、西側にも大きな雑木林があり、多様な緑環境を有している公園です。活動する雑木林は、西側に傾斜している斜面地ですが、タマノカンアオイやキンラン、ギンランなど貴重な植物種が多く見られる斜面緑地です。

小田急線を挟んで直ぐ近くに、からきだの道の雑木林が位置していて、中和田地区のみどりの拠点となっています。公園施設として整備された農家風休憩施設とともに池や流れがあり、里山の風景を残した景観となっています。



⑭ 多摩市立グリーンライブセンター活動班

多摩市立グリーンライブセンター活動班は、平成24(2012)年8月から活動を開始しました。多摩市立グリーンライブセンターが多摩市と恵泉女学園大学、多摩市グリーンボランティア連絡会の三者連携による企画運営となったことを受けて、多摩中央公園班を中心とする多摩GV森木会の会員有志でバックヤードの整備や維持管理等を行いました。

平成29(2017)年からは、初級講座の修了者の中ですぐに多摩GV森木会の活動団体のころに所属できなかったり、当分、活動できる時間が無い修了者のために、月に1回、第4日曜日に、来れる時だけ、活動に参加してもらい、活動の意欲を中断させない活動場所ということで活動を続けています。



多摩市の貴重なみどりを次の世代に受け渡す

このように多摩GV森木会では、多摩市と協働して多摩市内13箇所での多様な雑木林環境で、地域の市民の方々とも連携しながら、安全に、楽しく、生きがいのある、活動を続けています。

多摩市内の公園緑地には、まだまだ放置に近い状態の雑木林が多く残されています。左図に転載しました「多摩しみどりの基本計画(平成24年6月改訂9)」の中でも、多摩市の貴重なみどりの拠点と軸が示されています。

これらのみどりの中には、市民のアダプトによる維持保全活動がなされている雑木林もありますが、活動を一緒に行って頂ける仲間が少なく、貴重な自然環境の維持保全が十分でない雑木林もあります。

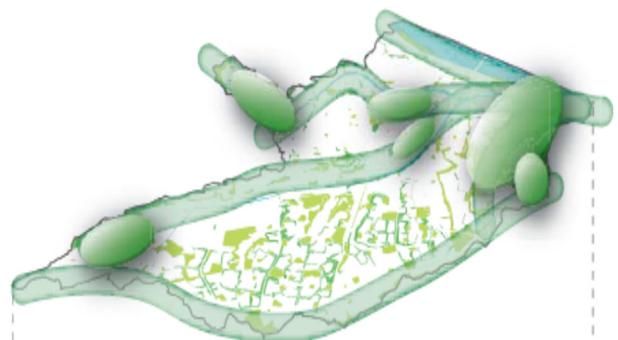
まだ林の中での活動を行ったことが無い方でも、四季折々の多様性豊かな雑木林に興味のある方がいらっしゃいましたら、興味のある活動場所を訪ねていただき、活動している人に声をかけてください。

活動には、いつからでも、2~3か所掛け持ちでも、参加できます。声をかけて頂きましたら、やさしく案内いたします。

また、直接声かけすることができないようでしたら、多摩市立グリーンライブセンター内の事務局にお問い合わせください。

私たちが住む、多摩市の貴重な雑木林のみどりが、100年後、200年後の次の世代に引き継がれていけるように、皆様のお力添(関わり)をお願い致します。

多摩しみどりを活用して”素晴らしい、幸齢の、仲間づくり”をしましょう。



多摩しみどりの基本計画  
(平成24年6月改訂)  
によるみどりの拠点と軸のイメージ図

● みどりの拠点イメージ  
— みどりの軸イメージ

～多摩市みどりのかわら版～

## 帰ってきたお騒がせマン

多摩市立グリーンライブセンター 芳野 俊彦

初めまして、というところなのでしょうが、ご存じの方もいらっしゃるように、平成 24 年 4 月に

「みどりと環境課」（翌年公園緑地課に変更）に配属となり、平成 26 年 3 月までの 2 年間に在籍していました。ただ今回は初めて接する方を念頭に、自己紹介を中心に書かせていただこうと思います。

私は、小学校 1・2 年生の時には分校に通っていました。個人の畑が通学路であるという今では考えられない状況ですが、常に自然と接していた記憶があります。そういう生い立ちもあって公園緑地課に異動してすぐにグリーンボランティアには興味を惹かれました。すぐにでも講座を受講したかったのですが、公私混同とみられたくないので、公園緑地課を異動になってすぐ平成 26 年度の初級講座（第 14 期）に応募しました。同期には松澤さんや飯田さん、古澤さん\*1 らがいらっしゃいました。

続けて中級（第 12 期）にも参加し、刈払機だけを翌年に持ち越し、無事中級講座を修了しました。

その頃の自分は樹木の管理だけでなく、生物や木の実や葉っぱを使った遊び等様々なジャンルにのめりこみ、森林インストラクターの試験に挑戦したり、東京都の「緑のボランティア指導者養成講座」（基礎と専門）、コマツの教習所でチェーンソーの講習を受講したりと積極的に取り組んでスキルの上達を目指していました。

しかし、人生とは無情なもので、さあこれからという時に、大腸を手術し、排せつ等に不自由をきたし、それに慣れるためトイレのない場所での活動はむずかしくなりました。

そのあとは勤務の関係で、土日祝日も全く休めない月もあるような日々が続き、グリーンボランティアに参加するには時間的にも精神的にも余裕がなくなり、そうこうしているうちに定年を過ぎてしまいました。

久しぶりにグリーンライブセンターに来たときは懐かしい顔ばかりで、何年も前にタイムスリップした錯覚とともに当時のことをおぼろげながら思い出しました。

一方で、時の経過とともに、気候変動を生活の中で実感するようになり、地球環境を取り巻く情勢を

最近をよく目にするようになりました。そのたびによく思い出すのは、みどりのルネッサンスを策定中に涌井先生から教えていただいたことですが、「自然を守るものは、自然に守られる」という言葉です。自然災害という中には人類が招いたものも、招こうとしているものもあるのではないかと感じています。

今ここに来て、グリーンライブセンターを大切にすることイコール地球環境を大切にすることと勝手に思っています。

最後になりましたが、私の勤務は、あと長くても 2 年程度です。その間に皆様方のお役に立てるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

\*1 芳野さんと同じく初級 14 期修了生である鶴城西みどりの会会長の古澤さん、事務局の飯田さんや松澤も、芳野さんがグリーンライブセンターに着任したと知った時には、懐かしくとても嬉しかったです。今後もよろしくお願いします！

## 編集後記 ～ふたつとないもの～



こちらの赤ちゃんはコナラです。ふと上を見上げると、黄色く色づいたコナラが・・・成木と若木の紅葉の色が違います。日当たりの良いところにある若木にまれにこのような赤→紫色の紅葉をするコナラがあるそうです。（まつ）

## 表紙の絵

## 「オニドコロ」絵・内城葉子

林縁に元気よく絡まっているツル植物の代表、オニドコロ。ヤマノイモに似ていますが根は苦く、葉もにがいです。

<プロフィール> 1949 年東京生まれ。1986 年国立科学博物館第 2 回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989 年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005 年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 47 号

発行日：2022 年 12 月 15 日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tg1c/>